

# 事業紹介・事業報告

## 能登地域における 総合交通マップの作成



瀬尾卓也  
調査第二部  
部長



島村喜一  
調査第二部  
席主任研究員

### 1. はじめに

本年7月7日の能登空港開港にあわせ、観光交通の利便性を増進することにより周辺地域の活性化を図る取り組みの一つとして、全国に先駆け能登地域をモデルに総合交通マップを作成したので、その概要を報告する。



写真 - 1 マップ全景

能登空港の開港により、1日2便であるが、能登地域と東京は60分で結ばれた。しかし、空港から能登地域への移動に供する二次交通を見た場合、平成13年にのと鉄道の穴水～輪島間が廃止されるなど、厳しい状況が続いている。この様な中、地元の石川県などが中心となり、能登空港ふるさとタクシーなどの新たな交通サービスの提供が試みられている。

しかし、いずれにせよ、能登空港へ降り立った観光客が高速交通サービスのメリットを活かして地域を円滑に移動するためには、空港からの二次交通として、バス、民鉄などの公共交通機関だけでなく、レンタカー、タクシーなどを有機的に活用する必要がある。

このため、これ1冊あれば、どの地域から来ても、能登を安心して旅行できるよう、地域の様々な交通機関の情報を網羅した総合交通マップを作成した。



写真 - 2 能登空港（開港前に撮影）



・能登空港ふるさとタクシーとは、  
空港と旅館、会社、自宅等を結ぶ乗合タクシー。輪島などの近場で500円、珠洲などの半島先端でも1,000円と低料金が魅力。

写真 - 3 能登空港ふるさとタクシー

## 2. 「能登学」事始めの契機づくり

いにしへの能登は、環日本海地域における海上交通の中心であった。このため、大陸との交流や海の文化に由来する特徴的な歴史、文化、風俗が色濃く残っており、このような能登の魅力に引きつけられた、能登ファンとでもいうべき人々が、国内外に多数存在する。

マップ作成に際しては、このような能登ファンを巻き込みながら、国土学としての「能登学」の創設を視野に入れて検討を進めた。具体的には、首都圏在住の各分野の有識者や、地元の世話役や行政関係の方々に研究会へご参加頂き、様々な視点からご意見を頂いた。更に、研究会メンバーを中心に能登マップ発見隊を組織し、実際に地域をめぐり、能登の魅力、底力、能登ファン予備軍としての観光客へアピールする点を検証し、マップの内容を充実させた。

表 - 1 研究会メンバー

「能登巡り必携・総合交通マップ」研究会メンバー (敬称略)		
座長	政所 利子	(株) 代表取締役
顧問	飯田 恭敬	京都大学大学院工学研究科教授
	安島 博幸	立教大学観光学部教授
委員	桐谷 エリザベス	NHK国際放送編集委員
	桐谷 逸夫	洋画家
	久保田 章敬	建築家、共立女子大講師
	麦屋 弥生	(財) 日本交通公社地域調査室長
	森山 奈美	(株) 御祓川
	藤平 朝雄	(株) 稲忠漆芸堂相談役兼 キリコ会館館長
	中村 勝昭	輪島市産業経済部漆器観光課 担当参事
	大井 義嗣	金波荘今昔振舞社長
	野見 俊彦	七尾商工会議所青年部副部長
	粟津 信一	エヌ・エープロダクション代表
神代 璞	ザ・カントリークラブ能登支配人	
(事務局) 国土交通省北陸地方整備局企画部 国土交通省北陸信越運輸局企画部		



漆器に係る技術・歴史・文化を知る。(輪島市)



宿場街の歴史や町並みを体験する。(鹿島町)

写真 - 4 能登マップ発見隊の様子

## 3. 総合交通マップの特徴

### (1) 総合交通マップ作成の5つのポイント

研究会におけるご意見をもとに、以下の5点に留意しながらマップ作成を進めた。

「わかりやすい、見やすい、使いやすい」マップづくりに努めた。

わが国初のエリアの交通情報を横断的に整理・網羅した。

地域活性化を踏まえ、官と民、地方と都市の連携・編集体制をとった。

地域学(地元学)を誘導する、地元の魅力資源発掘に努めた。

参加型と双方向の工夫を行った。利用者が自ら書き込

む白地図を用意し、マップ利用者自らが新しい視点で自分だけのマップを作成し、これらを能登の新資源発掘に結び付けられるようにした。

(2) 総合交通マップの基本構成

マップの使い勝手やそれぞれの情報の更新間隔などを考慮して、マップ全体を、以下の3部構成として、付録と地域情報誌を、本体へ差し込む形式とした。

総合的な交通情報を中心とする本体

定期的な更新が必要な情報(時刻表、料金など)を載せる付録

本格的で魅力的な観光情報を、四季折々に紹介する地域情報誌(「時の歳時記」)

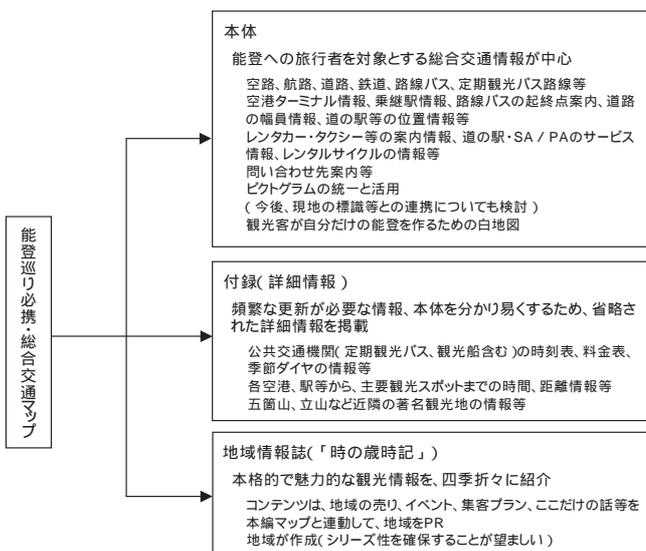


図 - 1 総合交通マップの基本構成

(3) 総合交通マップの特徴

本総合交通マップの特徴を「わかりやすい」、「見やすい」、「使いやすい」という3つの基本事項を中心に整理すると以下の通りである。

「わかりやすい」

これまで交通事業者ごとに提供されてきた交通情報を網羅的、横断的に掲載。

具体的には、飛行機、鉄道、特急バス、観光バスだけでなく、地元住民の足として利用されている路線バ

スやコミュニティバス及びレンタカー、レンタサイクル等の交通機関を網羅的に編集し、能登半島を5つのエリア別にも再掲。

地形図には、道路車線数、走行条件、道の駅など、初めて能登を訪れた人々でも安心して移動できる情報を掲載。

特に、道路は車線数と規制の状況など機能別に示し、行政界などは極力省略し、ユーザーサイドに立った表記としている。

いざという時(緊急時)の主要施設(病院、警察、各種案内窓口など)情報や連絡先を掲載。

ラジオ交通情報の提供時刻などや、観光情報等のインターネットサイトを示し、最新の情報を得られる立体的工夫をしている。

能登を起点として金沢、富山、世界遺産(白川郷、五箇山)などの周遊ルートなどの周辺情報も掲載。



図 - 2 マップ本体(輪島周辺エリア)  
・狭幅員の道路や道の駅を掲載。(わかりやすさ)  
・英語や図記号(ピクトグラム)を掲載。(見やすさ)

「見やすい」

表記には、主要な情報については、一部英語を併記。中国語、ハングル語についても併記。さらに、図記号(ピクトグラム)も掲載し、外国からの旅行者も利用できるよう配慮。

「時の歳時記」は、能登地域を「小松空港～金沢」、「富山空港～氷見」、「羽咋～七尾」、「門前～輪島」、

「能登空港～珠洲」の5つのエリアに分け、地域の食、文化、祭りなど旬の情報を紹介。エリアの色分けは、本体と同一としている。さらに今後の民間主導の活用へ結びつける。

#### 「使いやすい」

パスポートサイズでコンパクト及び汎用性を高めた。本体に加え、観光情報を掲載した「時の歳時記」と、各交通機関の詳細情報をまとめた「付録」を作成し、今後のダイヤ改正や旬の観光情報の更新ができるよう配慮。

自分で描く能登マップページ（白地図）を掲載し、旅行計画の立案や自分が訪れたルートを地図に描くことができるスペースを設けるなど、手作りの旅行行程と再来を念頭において編集。



・白地図には、旅行者が自分だけのルートづくりの手がかりとなるよう、能登の魅力的な写真を掲載した。（使いやすさ）

図 - 3 マップ本体（白地図）

#### その他

白地図頁など参加型にすることにより、使い捨て観光パンフレット型から持ち帰り型として能登土産の一品型への転換を図る。

## 4. 更なる発展に向けて

研究会では、本マップを地域活性化へ結び付けていくため、今後、以下の様な取り組みが必要であると指摘されている。

- (1) 地域が連携し、マップを携帯し、能登を巡る人々に対し、より質の高いサービスが提供できるように努める。
- (2) 「時の歳時記」などにおいて、旬の情報の掲載を地域主体で継続的に取り組める体制をさらに整える。
- (3) 本体と別冊を用意することで利用者からの情報提供などを受け、双方向での情報ツールとする。
- (4) 利用者にとって「分かりやすい」「見やすい」「使いやすい」ものとするために、総合交通マップの情報と県・市町村発のHPなどを始めとするネット情報や各地のサインなどとの連携、整合性を促進することが必要。
- (5) 観光交流空間づくりなどの中で、地元が地域を知る、新しい視点で見つめ直すなど、これからの「地域学」としての「能登学」のきっかけとして、そして共通する手がかりとして総合交通マップを活かす。

この様なご意見を受け、マップの内容・使い勝手を更に向上すべく、利用者アンケートを実施（9月末まで）しており、今後、その結果をもとに研究会の場で引き続き議論を重ねて行きたいと考えている。

## 5. まとめ

最後に以下の2点について期待を述べて、本稿の結びとしたい。

- (1) 地域が一丸となって、掲載情報について今後とも利用者の意見把握に努め、継続的に発展する取り組みが重要である。
- (2) 本取り組みで得られた知見が、他地域における地域活性化の取り組みの参考となることを大いに期待する。